

## 2分で新型コロナウイルスを可視化する新規検査法を開発

有限会社マイテックと琉球大学は2021年3月15日、量子結晶を用いたプラズモン増強効果により新型コロナウイルスを2分で可視化する新規検査法の共同開発成果について記者発表しました。

現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の診断法としてPCR検査が標準的となっていますが、手技が煩雑で時間を要し十分に普及しているとは言えません。迅速抗原検査はどこでも簡単に検査できますが、PCR検査と比較すると感度が低く一度に大量の検査を行うことはできません。このような現状から、迅速、簡便、高感度で、かつ一度に大量の検査ができる新しい検査手法があれば理想的といえます。

有限会社マイテックはバイオチップを用いたがんの早期診断法を確立していますが、今回、この技術をCOVID-19の診断に応用する共同研究を琉球大学病院第一内科と行いました。その結果、患者検体を用いた臨床性能評価ではPCR法との陽性一致率は72～94%であり、高い診断性能が示されました。今回開発の検査法は簡便かつ迅速に検査できることから、本手法の普及によりCOVID-19の早期診断と迅速な感染対策が可能となり、感染拡大防止への効果が期待できます。今後、更なる検査精度向上のための最適化や、より大規模な臨床性能評価、そして自動検査機器の開発を行う予定です。

詳細はこちら [【琉球大学公式HP】](#)



出席者 左から、

感染症・呼吸器・消化器内科学講座 新垣 若子医師、上 若生医師、同講座 金城 武士助教、  
同講座 藤田 次郎教授、石田 肇大学院医学研究科長・医学部長  
(有)マイテック神戸研究所 長谷川 裕起研究員、長谷川 克之研究所長

記者発表の様子



金城 武士助教



(有)マイテック神戸研究所  
長谷川 裕起研究員

